



建築人

5
2014



大阪ホンマもん

この三月、広島県尾道市を訪れる機会があった。恵まれた瀬戸内海の要衝に位置し、古来よりさまざまな物資の中継基地として発展した商都で、開港から八四〇年以上の歴史をもつ港町である。尾道駅で降り、眼前に広がる海沿いを東に十分ほど歩くと、京都大学の名物教授だった増田友也（一九一四〜八一年）が相継いで設計を手がけたふたつの建物、尾道市庁舎と公会堂が見えてくる。遠くには、絶景のサイクリングロードとして知られる瀬戸内しまなみ海道の吊り橋が望まれる素敵場所だ。しかし、竣工した一九六〇年当時の写真を見ると、現在のような護岸も海側の広い駐車場もなく、海面ギリギリに立地し、敷地も木造の民家に挟まれて窮屈そうだ。おそらく、だからこそ、圧倒的な存在感を醸し出していたに違いない。しかし、戦後復興の途上の時代である。限られた厳しい予算の下で設計されたのだろう。訪れると、研ぎ澄まされた心地よい緊張感を漂わせた外観に出会う。竣工時に増田が記したと思われる文章には、次のような言葉が残されている。

「われわれは尾道市庁舎の建築において、現代のわれわれがとらえるべき真の建築にいくらかでも近づこうとした。（中略）この建築にはモチーフや素材の目新しさはない。すでに一応手慣れたものの中での追求である。しかし、より大きな意図は空間と造形との中に建築をとらえようとするところにある。（中略）いろいろの要素をできうるかぎり省略し、排除し、純粹なもののみを抽出する。この残された数少ない要素はおのの独立の存在をしめしつつも全体の中に統一される。われわれは目先の奇抜さを追うよりも、時間という厳しい批判にた

え、長く生き残るものを願っている。」（『新建築』一九六〇年八月号）

この言葉からも、迷うことなく、「真の建築」を求めて厳しく素材やモチーフを吟味した設計が進められたことが読み取れる。すなわち、狭い敷地と限られた予算の中、通常は別棟にされる事務棟と議会棟をコンパクトにひとつにまとめて統一感を与えつつ、構造的にも、階段室やエレベーター、トイレなどを中心のコアにまとめ、他は必

記憶の建築 松隈 洋

尾道市庁舎・公会堂 1960・63年
「市民のモニュメント」としての建築



海側から見る市庁舎の外観、奥に見えるのが公会堂



折板構造の外壁と屋根で構成された公会堂の外観

あたって大きな手がかりとなるのが、構造を担当した岡本剛が市庁舎の建設中に記した「新しい構造と記念性」という文章である。彼はその中で、「一、二年前ごろから鉄筋コンクリート造の建物で和風木造建築の様式を模倣したと思われる勾欄破風様式とでも名づけられる新構造が流行している」ことに對して、次のように指摘していた。

「二階から最上階まで同一サイズの柱はポテンシャルされた重力を指示する感じに乏しく軽薄であるように思われます。そこでは建物の重量は無視されており、この建物を横にしても逆さにしても同じである点において工芸品と異なる所はありません。スパンと階高の比および階数によって美しく見える柱および梁の太さの比はある範囲内にあることはおのずから明らかであります。すなわち重力に対する調和が必要であります。」

たしかに、香川県庁舎は下から上まで同一サイズの柱で貫かれているのに対して、尾道市庁舎では上に行くに従い柱は細くなっている。それが「重力に対する調和」と清新さを感じる理由なのだろう。こうして、この建築の立ち位置が見えてくる。それは、丹下の求めた建築の自立的な美ではなく、先の増田の文章の結語にあるように、「市民のモニュメントとして、いつまでも新しき永遠なるもの」を目指した建築だった。二〇一四年、増田は生誕百年を迎える。全面建替えの計画が進む中、彼がこの建築に込めた意味を改めて噛みしめておきたい。

形のみをそのまま無批判にコンクリート造で作ることは全く意味がないのみならず、見せるための、見せかけの構造材は人をあざむくものであり、嘘のものであると思います。美しく見えさえすれば、嘘でもよいという態度は一時的にそのように見えることがあるとしても、万人にかつ永遠に通用するものとは思われません。私はかかる嘘の表現は記念性に乏しいと考えます。」（『建築と社会』一九六〇年一月号）

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

平成26年度定時総会・式典・懇親会
欠席の正会員は必ず委任状を送付下さい。

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

平成26年度定時総会を下記の要領で開催いたしますので、ご出席賜りますようお願い申し上げます。本総会が成立するためには、総正会員の1/3以上のご出席(委任を含む)が必要となります。正会員様のご欠席の際は、委任状にご署名いただいて必ず本会にご返送ください。委任状、議案書(正会員のみ)は本号に同封しております。準会員・特別会員・賛助会員様は、総会の議決権はございませんが、記念講演会、式典・表彰式、懇親会にふるってご参加下さい。

日時 5月28日(水)
会場 ホテル大阪ベイタワー4階
大阪市港区弁天1-2-1
スケジュール
総会 14:30～15:30
記念講演会 15:45～16:45
講師 古谷誠章
式典・表彰式 17:00～17:45
来賓祝辞拝受
第59回大阪建築コンクール表彰
第6回建築人賞表彰
永年会員表彰等
懇親会 18:00～19:30
会費 6,000円 要事前申込
展示 第59回大阪建築コンクール・
第6回建築人賞受賞作品パネル展示

国土交通省の登録を受けた登録資格者講習と同等以上の内容を有すると国土交通大臣が認める講習の認定について

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞表彰式は、村野藤吾の設計による宝塚市庁舎にて村野藤吾の誕生日の5月15日に開催します。授賞式・記念講演会では、受賞作品のパネル展示も行います。

受賞者 千葉学
受賞作品 工学院大学125周年記念総合教育棟

●授賞式
日時 5月15日(木) 13:00～13:30
会場 宝塚市庁舎1階市民ホール
(兵庫県宝塚市東洋町1-1)
申込 不要・入場無料
●記念講演会(宝塚)
日時 5月15日(木) 13:45～15:15
会場 宝塚市庁舎3階大会議室
(兵庫県宝塚市東洋町1-1)
講演 受賞作品について(仮)
講師 千葉学
入場 無料(申込不要)
問合せ 村野藤吾記念会事務局
(株)建築メディア研究所内
Tel. 03-6280-7497

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

高資産価値住宅評価委員会と住宅地盤診断センターの共催によるセミナーです。
日時 5月22日(木) 13:30～17:00
受付13:00～
会場 エルおおさか6階606号室
大阪市中央区北浜東3-14

対象 設計者・工務店
受講料 無料
定員 100名(申し込み順)
申込 NPO法人住宅地盤診断センター
Tel.03-5395-5023

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

しております。
公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けますのでどうぞご利用ください。

なお、本会は平成26年2月18日付けで、(一財)日本建築防災協会の「既存建築物耐震診断・改修等推進全国ネットワーク委員会」に入会するとともに、当委員会の耐震判定委員会に新規登録しました。

http://www.kenchiku-bosai.or.jp/nw/ (業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の割引があります。
詳細につきましては、本会ホームページをご覧ください。

平成26年一級建築士試験案内

●受付場所における受験申込
配布期間 4月1日(火)～5月12日(月)
(土曜日、日曜日、祝日は除く。5/10(土)、5/11(日)は受験申込書の受付を行う所定の受付会場に限って配布を行います。)
配布時間 9:30～17:00
(5/12(月)は9:30～16:00)
配布場所 大阪府建築士会
大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階

受付期間 5月8日(木)～5月12日(月)
(土、日を含む)
受付時間 10:00～17:00
受付場所 大阪府建築士会
学科試験日 7月27日(日)
設計製図試験日 10月12日(日)
※建築技術教育普及センターのホームページで情報提供しています。
http://www.jaiec.or.jp/

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,960円(消費税込)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

二級建築士／設計製図
受験対策講習会
実力養成コース 7/13～9/7
直前対策コース 8/24～9/7
模擬テストⅠ・Ⅱ 8/3、9/7

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務に直結した指導を行います。
■実力養成コース(全10回、模擬テスト2回含む)
日程 7/13(日)、7/20(日)、7/21(祝)、7/27(日)、8/3(日)、8/10(日)、8/17(日)、8/24(日)、8/31(日)、9/7(日)
時間 9:30～17:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 35名(申込先着順)
受講料 建築士会会員110,000円、一般125,000円

■直前対策コース(全3回、模擬テスト1回含む)
日程 8/24(日)、8/31(日)、9/7(日)
時間 9:30～17:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 15名(申込先着順)
受講料 会員35,000円、一般40,000円
■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程 Ⅰ:8/3(日)、Ⅱ:9/7(日)
時間 9:30～17:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 【各】25名(申込先着順)
受講料 【各】会員13,000円、一般15,000円

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

大阪市東地域会「発足会」
5/24 CPD2単位(予定)

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

大阪府建築士会における地域活動において、今まで大阪市外では、8地域の「建築士の会」が活発に活動されていますが、大阪市内には、地域会というものがありませんでした。そこでこの度、大阪市東地域会を発足させ、会員親睦を高めたいと思います。
日時 5月24日(土) 受付13:30～
集合場所 生玉神社境内
(大阪市天王寺区生玉町13-9)

内容 天王寺七坂巡りと懇親会
参加費 3,000円程度(懇親会費用)
対象 大阪市内、中央区、天王寺区、生野区、城東区、東成区、鶴見区に在住在勤の会員の方。
※申込された方は、発足会当日、直接集合場所にお越しください。

大阪地域貢献活動センター
平成26年度 助成対象活動募集

建築士と地域住民等が連携して進めるまちづくりなどの地域貢献活動に対して、活動費の助成などを行います。
■募集期間 5月30日(金)まで
■対象とする活動
建築士と地域住民等で構成する団体が進める地域貢献活動が、地域住民等と連携して進める地域貢献活動で、原則として営利を目的としていない活動。
■助成額 1件の助成額は30万円を限度

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

新入会員歓迎企画
見学会「利休と刃物のまち・堺探訪」
5/31 CPD6単位

千利休生涯の地、堺のまちを一日探訪します。伸庵・黄梅庵などの茶室を中心に、現存する歴史的建造物を訪ね「包丁」に代表される「ものづくりのまち」という側面に触れることで堺に残る歴史と文化をたどります。昼食は、堺名物の「あなご料理」を予定しています。
開催日 5月31日(土)9:30～16:00
集合 JR百舌鳥駅(受付9:15～)
案内 七堂元敏(堺市建築都市局開発調整部)
定員 40名
(申込先着順・入会半年以内の方優先)
参加費 会員4,000円 会員外5,000円
(昼食代及び施設入館・拝観料含む)

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

Administration

行政からのお知らせ

石綿飛散防止対策に係る説明会
～大気汚染防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例の改正について～

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

大阪府では石綿飛散防止対策に係る法・条例の改正について関係者への周知のため府内7会場で説明会を開催します。

会場と日時
5月13日(火) 14:30～
南河内府民センター 講堂
5月15日(木) 14:30～
東大阪市立男女共同参画センター
イコラーム ホール(希来里ビル6F)
5月16日(金) 14:30～
枚方市立メセナひらかた会館6階大会議室
5月20日(火) 14:30～
堺市職員会館 大会議室(堺市役所本館地下1F)
5月21日(水) 14:15～
大阪市立北区民センター ホール
5月23日(金) 14:30～
高槻市 市民会館南大会議室
5月27日(火) 14:30～
豊中商工会議所 大会議室

参加費 無料
参加は開催日前日までに申込
問合せ 大阪府環境農林水産部環境管理室
事業所指導課 大気指導G
Tel.06-6210-9581
http://www.pref.osaka.lg.jp/jigyoshoshido/asbestos/kaisei.html

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

「近畿建築行政会議 建築基準法 共通取扱い集」(初版)発刊及び説明会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

近畿府県の特定行政庁で構成する近畿建築行政会議総則部会では、建築基準法における近畿圏内の統一的運用を掲載した表記共通取扱い集を作成し、下記の通り設計者むけの説明会を開催します。

■説明会
日時 5月30日(金) 14:00～17:00
会場 大阪府庁新別館南館8階大研修室
参加費 無料
テキスト 「近畿建築行政会議 建築基準法共通取扱い集」建築行政情報センター発行
※テキストは事前購入のうえ各自持参をお願いします。当日販売はありませんのでご注意ください。
5月23日(金)までに、ご購入手続きをお願いします。
テキスト購入・問合せ先
一般財団法人建築行政情報センター
Tel.03-5225-7704
参加申込 事前申込み予約が必要。
大阪府建築士会HPより申込。
問合せ 大阪府住宅まちづくり部建築指導室
審査指導課
Tel.06-6210-9724

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

Others

その他のお知らせ

第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

INFORMATION

「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」解説講習会

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を開催します。
本手引きは、平成25年12月に(公財)建築技術教育普及センターが、平成21年9月国交省が作成した「工事監理ガイドライン」の適正な活用と普及を目的として刊行しました。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月4日(水)及び7月2日(水)

10:00～15:15
※5月19日開催分は、満席のため受付を終了しました。
定員 それぞれ50人(定員に達し次第受付を終了)
会場 たかつガーデン
大阪市天王寺区東高津町7-11
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 7,560円(テキスト代(4,860円)込。税込)
申込 講習日の1週間前までに、申込用紙を近畿支部にFAX
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel. 06-6942-2214
http://www.jaiec.jp/

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

●第27回村野藤吾賞授賞式・記念講演会

第7回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 古谷 誠章（早稲田大学教授）



1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞 （賞状と記念盾）

建築人奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第7回 対象作品

「建築人」2014年1月号から2014年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（2段階審査）

一次審査 建築人誌面より選定

二次審査 二次審査資料により選定（現地視察含む）

■ 受賞発表

建築人2015年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2014

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

モノクロ 2ページ 10万円

モノクロ 1ページ 5万円

※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』
Gallery 建築作品掲載係まで。

Gallery 建築作品紹介

平野の家

設計：こま設計堂
施工：新勢建設



敷地は大阪市平野区の町工場兼用住宅が並ぶ密集市街地にある長屋の建
て替え。建物正面はこれまでの長屋の佇まいを意識し、両隣の建物と建
物位置を合わせ、中庭をできる限り大きくとりました。施主は、室内犬
3匹、室外犬1匹の愛犬家の共働き夫婦で、犬と快適に暮らすための計
画にしています。中庭もその一つで、室外犬はここで暮らす一方で、家
族はどこにいても常に見えます。屋上は陸屋根でドッグランとなってい
ながら、正面からは陸屋根に見えないような形状にしています。犬友達
が来ることも多く、プライベート空間との切り分けも考慮し、玄関・中
庭・階段・屋上との関係をコンパクトにまとめています。

所在地：大阪市平野区
用途：専用住宅
竣工：2013.12
構造規模：木造2階建
敷地面積：120.62㎡
建築面積：72.36㎡
延床面積：125.33㎡
写真：鞍留清隆

高槻市に残る町家を調査する5年がかりの活動が「たかつき町家図鑑（マチヤ・レポート）」としてまとまり、現在出版準備中です。「町家の保全活用について、まちのみなさまに寄り添いながら、行政のみなさまとも力を合わせて取り組んでいきたい」と語る、マチヤ・テラスの中心メンバーである岩崎卓宏さんにご紹介いただきました。

マチヤ・テラス～高槻町家、その心を照らします～

岩崎 卓宏

高槻町家を照らす市民活動、マチヤ・テラスの中心メンバー。本業は建築設計。大阪市内の設計事務所勤務を経て独立、現在は、岩崎建築研究所。元は団地オタク、今は町家オタク。目下、「町家図鑑」出版準備中。マチヤ・テラス通信：http://fukeiexblog.jp/

はらはらと舞い降りてきた。手に受けると、桜でした。鳥がついばんだらしく、一輪まるごと。なぜか、花びらが六枚。唐突に今回のご寄稿のことを考えました。

よく「まちのために」とか「みんなのために」とか言います。でも、誰かのために役に立てたとしても、他の誰かにとっては迷惑だったかも知れず、一筋縄ではないかない。ならば、私は、地元高槻の、町家にお住いの人たちとその家のために働きたいと思う。たくさんの人たちにお世話になり、ここまで建築士としてやってきた、こんな私でも誰かのお役に立てるのなら、できる限り無償で取り組みたいと思う。今日は、そんな思いで取り組みんでいるマチヤ・テラスという活動についてお話をさせていただきます。

大阪府高槻市は大阪と京都の真ん中、淀川右岸のまちです。ベッドタウンとしてのイメージが強い。そして、歴史的な面では、古墳が多いことで有名かもしれません。しかし、高槻はれっきとした城下町です。戦国時代にはキリシタンで有名な高山右近の居城でしたし、江戸時代にも城がありました。残念ながら、城郭は堀も含めて現存しませんが、街路の形態や点在する町家などが城下町や宿場町としての記憶を今に伝えてくれています。「高槻に町家なんかあったっけ?」。よく言われます。確かに、まちなみとして町家が並び建つような場所は殆どありませんが、点在する形で相当数が残っています。高槻は開発されやすい立地であるため、まちの姿は常に変化し続けて新しい建物が多いのですが、それらの間に町

家がさりげに、しつかりと残っています。しかし、町家はどんどんなくなっていく。そこで、まちのどこにどういう町家があるのように残っているのか、これを調べてみようとして二〇〇八年秋に始めたのが「町家・まちなみ調査」です。小さな市民活動であるマチヤ・テラスがまちの中をトコトコと歩きまわり、町家の外観調査を行いました。それまで誰も高槻町家の実態を把握していなかったため、データベースを作ることも重要でしたが、実際にまちに出て歩きまわることで、町家にお住いのみなさんと出会い、話をする機会を得ることも大きな目的でした。だから、調査は急がず、あえてゆつくり

(笑) そうすると家の人と出会いやすくなる。調査した結果、例えば、旧城下町や宿場町の主要な街路沿道について、通りの総延長に対する町家間口の合計の割合「マチヤ率」を「マチヤ・グラフ」によって算出すると概ね三割。この割合が多寡についての印象は人によって違うでしょうが、少なくとも「高槻に町家は少ない」と言い切ることはできない結果だと思っています。この調査は昨二〇一三年二月末まで続き、ようやく結果の集計と分析を終えました。この内容は「たかつき町家図鑑（マチヤ・レポート）」として出版し、一般に公開したいと現在準備中です。いつかご覧いただけましたらうれしいです。また、公益性の高さから地元行政（大阪府と高槻市）への調査結果のご提供も、出版に先立って行います。今後、同じような活動を目指している人たちや町家に関心の高い人たちのご参考になるかもしれません、また、郷土の資料としても意味があると考えてのことです。地元のみなさんと信頼関係によって成り

り添うようにお手伝いする黒子です。町家と言うタレントのマネージャーみたいな感じです。「町家調査（マチヤ・トコトコ）」、「マチヤ・テラス（キャンドル点灯、夏冬の年二回）」、「町家実測調査」、「茶話会（マチヤ・カフェ）」などを行い、町家を舞台に町家の人々と支持する人々をつないでいきます。こういう活動に取り組んでいますが、マチヤ・テラスは組織の概念を持っていません。一人一人の集まりです。名簿も会費もありません。普段、各々の生活や仕事をしている人たちが、集まって来ていっしょに活動し、それぞれの場所へ帰って行きます。この活動の中で、私は当初から代表的な役割を担っていますが、私が代表なのかどうか、それも実は定かではありません。ただ、町家の維持や活用のために、できるだけ具体的な協力をする上で、私たちの建築士の役割は重要になります。まちの状況、その家の状況、家のみなさんのお気持ち、これらをよくよく理解するよう努めながら、自分に何ができるかを考えて活動しています。

最初にキャンドル点灯させていただいた町家が、昨二〇一三年二月、国の登録有形文化財になりました。私たちも文化庁に提出する図面と書類の作成をお手伝いしました。実務の合間に作業する日々が何年も続きましたが、無事に登録されて本当にうれしかったです。ご自分のお家を文化財にするという家の方のご決心は貴く、この一軒の町家の文化財登録が高槻町家全体の置かれた状況を少しづつでも変えていくきっかけになればと期待しています。先は長いですが、これからも地道に活動を継続していく所存です。



末筆でおそれいますが、マチヤ・テラスは平成二一年度から三年度の間、大阪地域貢献活動センターの活動助成を受けています。建築士会のみなさまにも大変お世話になり、本当にありがとうございます。普段から、お金をかけなくても無理なくできる活動を心掛けていますが、それでも印刷代やコピー代などは必要です。私たちのような無償活動にとっては大変心強いご支援となりました。この場をお借りして御礼申し上げます。またどこかでご一緒いただけることなどありましたら、どうぞよろしく願っています。



たさ。それを思いつつ筆を置きます。空から舞い降りた花のように貴重な機会があります。ありがとうございました。

立っている資料であるだけに、取扱いには十分に配慮が必要ですが、調査結果は一部の人が囲い込むのではなく、できるだけ広く公開したいと思っています。そして、個人での維持が厳しい町家の現状に対して、公的な補助などの実現につなげて行ければと考えています。マチヤ・テラスは少人数の市民活動です。高槻市が二〇〇六年に行った「景観ワークショップ」に参加した市民が、その後も活動を継続しようと集まったのが始まりです。私も初めから一市民として参加していました。旧城下町に築三〇〇年近い江戸中期の町家があり、その家のみなさんと知り合えたことから活動が具体化していきます。「そのたった一軒の町家をキャンドルで照らしてみよう」。それだけのことで、いつも通りかかってきた人たちに「そういや、ここにこんなキレイな町家があっくんあ」と気付いていただける。家の人たちにも「単に古い家やと思っていたが、こんなによろこんでもらえるのか」と気付いていただける。そして、私たちもそんな家の人たちや家を「まちのたからもの」と認識できる。二〇〇六年の冬至のころの話です。高槻には大小、新旧、様々な町家が数多く残っています。しかし、その維持への公的助成等は皆無と言ってよく、お住いのみなさんは大変です。そのご苦労を思うと簡単には「この町家を残してください」とは言えません。まちを歩き、町家のみなさんと出会い、お付き合いです。中で、町家のよさを見つけて喜び合い、例えば、町家の維持、活用へのお手伝いや、場合によっては、実測調査や文化財的な調査などをお手伝いします。町家とその家のみなさんが主役で、私たちは寄

理事会報告

文責 本会事務局

日時 四月二十三日(水)十六時～十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事三名、監事二名、顧問他五名
(1) 二五年度収支決算報告について

本年度の決算について、当期一般正味財産増減額は二、一九一、四一円となり、一般正味財産期首残高一四、四二四、五二七円から同期末残高を一六、六一五、九三八円と報告して承認された。

二五年度は、新規事業として大阪府立病院機構と業務委託契約を行った。また、建築士試験・同登録業務・専攻建築士・CPD登録など諸事業の受験者・参加者等が減少している中で、各事業の支出経費を抑える努力が現れている。なお、会員総数は昨年より一九〇名の減少となっており、今後も高齢会員の慰留策や若手会員の勧誘など諸事業を通して強化していく。未収会費は昨年比で約一〇〇万円減少しており、公益移行を反映して会費納入意識は若干高くなってきている。

(2) 二五年度監査報告について

監事より、本年度は事業報告・理事職務の執行・会計計算書類等の重要な点において適正に執行されていることが報告され、平成二五年度財務諸表等の会計関係書類を含めて承認した。

(3) 二六年度定時総会の準備について

総会は正会員の三分の一以上の出席が必要である。現在六八三名の出席回答(充足率七三%)を報告した。

(4) 組織体制について

前回理事会で承認された組織名称のうち、「被災支援」及び「住宅を設計する仲間達」をWGから分科会とすることを承認した。

建築相談(二〇一三年の建築相談室)

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、二〇一三年度の「建築相談室」での相談件数をまとめます。

建築相談室では電話相談に加えて、面談相談、現地相談も受け付けております。ここ五年分の変化とともに集計をしたのが図1です。

二〇一三年度に増加した、相談件数は、今年も増加し五百件を超えました。

面談相談や現地相談などの有料の相談については、面談相談が大幅に増加し、現地相談が減少しました。しかし、有料相談の合計数は、過去五年で最も多い数となっています。

二〇一三年度の相談内容の分類では、昨年度まで四十件程度だった新築・建築の考え方についての相談は六十三件に、昨年まで六十件程度だったリフォーム相談が百件、維持管理に関する相談は四十件程度だったものが八十一件と倍増しています。一方で、耐震に対する相談は昨年度までとそれほど変わらず二十件程度でした。バリアフリーに対しても相談件数は変わらず、全体として少なめです(図2参照)。

昨年四月から相談室の集計の書式を変更し、紛争・トラブルについて、詳細に集計しました。その結果、対施工者の他に、対設計監理者も十七件あり、反対に設計監理者や施工者デベロッパーからの相談の中に、対建築主も一定数あることが明らかになりました。建築相談室への電話は、建築主などの一般の方からの相談が主ではありますが、建築士から七件、施工者から七件、デベロッパーから十件、と少ない数の相談がありました。

相談内容から景気の改善も伺えますが、トラブルの種類も多様化していることがわかります。建築相談室では、建築士会のホームページに

本報告の詳細な分析を公開しております。大阪府建築士会ホームページの右側「建築相談室」をクリックしてください。

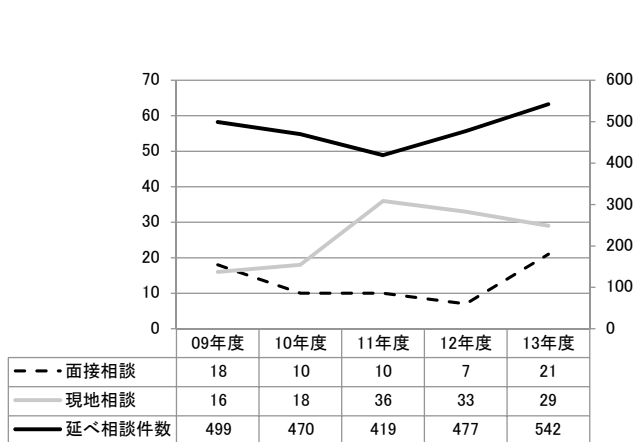


図1 過去5年の相談件数の推移

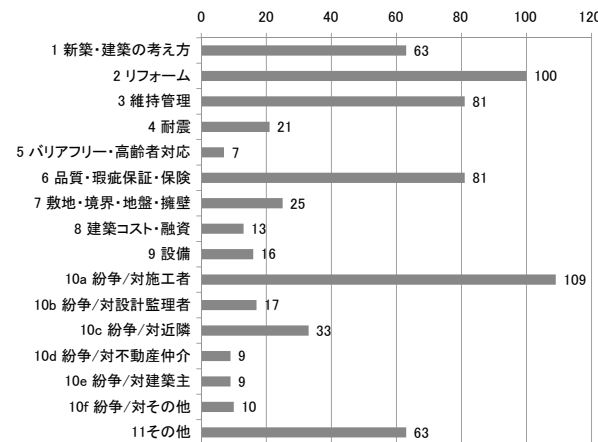


図2 2013年度の相談内容

大阪ホンマもん解説

写真 田龍哲也 文 牧野隆義

桜が咲き誇る頃、特に美しく映える学校建築が阿倍野区に存在する。今年で九〇年を迎える「大阪市立工芸高等学校本館」だ。

大阪で歴史あるデザイン及び造形を総合的に学べることが出来る公立の専門高等学校と、芸術系の専修学校である大阪市立デザイン教育研究所が敷地内に共存している。

設計は大阪市建築課で、施工は松村組による。規模は鉄筋コンクリート造三階建てで、竣工は大正三三年(一九二四年)。

この校舎の設計はアンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ設計のワイマール工芸学校を参考にしたとされる。しかし、この校舎はより装飾性に磨きがかかっている。手込んだ隅部のエントランスのアーチ部分や三階の優しい曲線を描くマンサード風の屋根が、人々の心に訴えかける。この建物は、平成二二年(二〇一〇年)に大阪市指定有形文化財に指定され、平成二二年(二〇一〇年)には近代化産業遺産に認定された。

現在、事業仕分けにより大阪市立デザイン教育研究所が、存続の危機に晒されている。創立当時の、新しい時代の芸術・造形教育を目指した熱い教育者の志を、私たちは決して忘れてはいけない。

建築人 5 2014

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表 米井 寛
編集人 荒木公樹 飯田英二
筑波幸一郎 中江 哲
橋本頼幸 牧野隆義
事務局 山本茂樹 母倉政美
印刷 中和印刷紙器株式会社

蛇口を開くということは、世界へ続く扉を開くこと。人と水との出会いを創造してきたSANEIは、この星をめぐる水の流れを、人の歓びへと進化させてきました。そして2014年、ここからもう一つ先の、新たな次元へ。

www.san-ei-web.co.jp 株式会社 三栄水栓製作所

60th SANEI 1954 EST.



茶屋町ガーデンビル 日建設計：大谷弘明＋川東隆＋津田文

大阪・梅田の若者が集う繁華街の小路に面した商業ビルである。決して良好とは言えない混沌とした街並みの中で、小規模ながら周辺とは一線を画す華やかさと存在感のある建物を目指した。

計画地である茶屋町は江戸時代に3軒の料理茶屋が賑わっていたことに由来する場所である。現代の茶屋町に商業施設を計画するにあたり、「茶屋格子」をモチーフとした「セラミックブロックスクリーン」を建物の顔として用いた。

手のひらサイズのセラミックブロックを「連ね格子」としたこのスクリーンは、街区の入口に足を踏み入れた瞬間には1つの面として、近づくにつれ格子状の立体感を持ち、正面に立つと格子の隙間から店舗の内部が伺える。食器・茶器・陶芸品で使用される優美な彩色を可能とする「釉薬」を用いながら、焼き物では高い技術力を必要とする「六面施釉」を施すことで、全方向からの視線に対応でき、光と影と灯と反射による艶やかな姿を表現している。

各階のテラスには屋上植栽を設け、中庭のヤマザクラから繋がる立体的な通り庭空間としている。スクリーンの合間から見え隠れる緑は街に潤いを与え、人々を内部に誘い込む。

様々な店舗が通り一杯に軒を連ねる街並みの中での凜とした佇まい。このスクリーンは、街と店舗及び中庭空間との連続性をとりつつ視覚的の遮蔽効果を両立させた柔らかな境界として機能し、「暖簾をくぐり、別世界に足を踏み入れる」感覚を喚起させる。

撮影：岡本公二 第33回大阪都市景観建築賞審査員特別賞受賞作品

■プロフィール

大谷弘明(おおたに・ひろあき)
1986年東京芸術大学美術学部建築科卒業
日建設計入社 現在 執行役員 設計部門代表

川東 隆(かわひがし・たかし)
1991年京都工芸繊維大学大学院修了
日建設計入社 現在 設計部門設計部主管

津田 文(つだ・ふみ)
2009年京都工芸繊維大学大学院修了
日建設計入社 現在 設計部門設計部所属

■建物データ

事業主：興亜株式会社
設計・監理：日建設計
施工：竹中工務店・旭ビルウォール
所在地：大阪市北区茶屋町4-4
主要用途：商業
建築面積：293.42㎡
延べ面積：1,192.29㎡
構造・階数：RC造、地上5階
設計期間：2010年08月～2010年11月
施工期間：2010年12月～2011年11月

